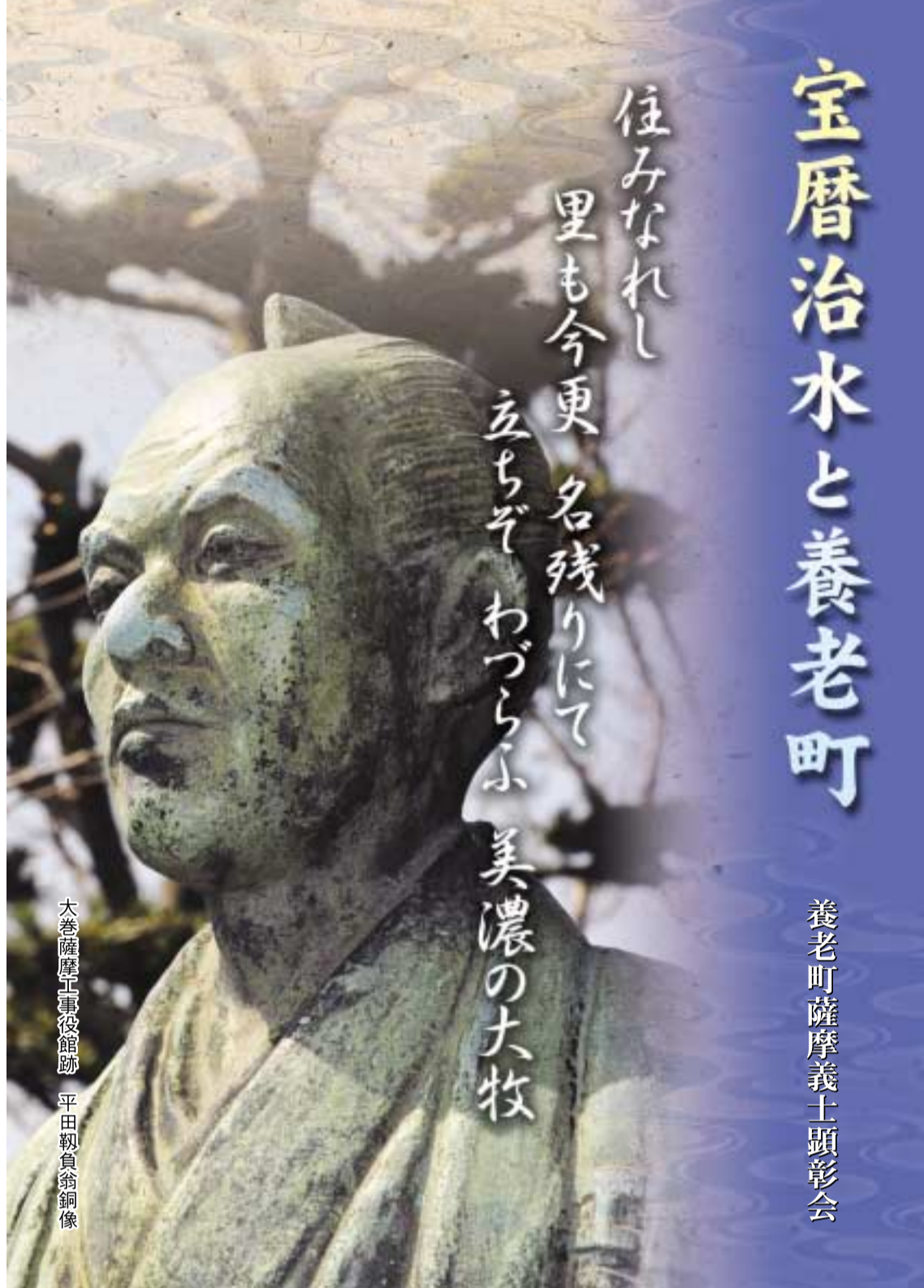


宝曆治水と養老町

養老町薩摩義士顕彰会

住みなれし
里も今更 名残りにて
立ちぞ わづらふ 美濃の大牧



大巻薩摩工役館跡 平田鞠負翁銅像

養老町の宝曆治水関係史跡等 案内図



天照寺の境内に所在しており、
岐阜県の史跡に指定されている。
宝曆治水工事で亡くなった義士
の内3名が埋葬されており、それ
が墓石もついている。

天照寺薩摩工役館跡



根古地薩摩工役館跡
地元では浄土三昧とも呼ばれており、宝曆の治水
工事で亡くなった24名の薩摩義士が埋葬されている。
岐阜県史跡。
昭和35年6月12日、排水路の改修工事に伴って
発掘が行われており、遺骨を納めた7個の甕が確認
された。このときの遺骨は墓碑の両端に再度埋葬され、
遺骨が納められていた甕のうち1個は現在天照寺に
保管されている。この発見を契機に慰霊堂が建てら
れた。



大巻薩摩工役館跡

養老町を含む木曾三川流域の輪中地帯
の歴史は、水害の歴史であり、水害がおきる
たびに田畑はもろん、家も流され、家族の
誰かが溺れて亡くなっていました。人々はこ
うした度重なる水害に対応するため、村を輪
中堤で囲むなど個別に対策をとる一方、水
害の大きな原因となっていた木曾三川合流
という問題を解決することを悲願としてさま
ざざと工事は開始されました。
木曾三川は当時伊勢湾の上流14kmのと
ころで合流していましたが、三川それぞれの
川底の高さは同じではなく、木曾川・長良川・
揖斐川の順に低くなっていったため、水が増え
るとみな揖斐川の方へ流れてきてしまつため
です。
しかし、そうした工事は莫大な費用と高
い技術が必要であり、輪中地帯の治水工事
の嘆願はすぐには実現しませんでした。
こうした時代背景の中、宝暦3年(西暦
1753年)江戸幕府はこの美濃から1,200km
も離れた薩摩藩に、幕府の設計に基づいて、
人手・お金・材料を負担して工事を実施する
よう命令を出しました。
これには、旧高須藩主であった尾張藩主
徳川宗勝が今は妻子が藩主を務める高須藩
領や尾張藩領、幕府領を水害から守り、さら
に薩摩藩であった薩摩藩の経済力を弱めるね
らいがあったと考えられています。
薩摩藩ではこの命令に対し、おもだった家
臣の全てが集められての会議が行われまし
たが、意見はまとまらず、むしろ「命令を突き
返す、一戦を交えても断るべき」という意見
が大勢を占めました。
そうした中、薩摩藩家老平田鞠負公の意
見は「縁もゆかりもなく、遠い美濃の人々を水
害の苦しみから救済する義務はないかもしれ
ないが、美濃も薩摩も同じ日本である。幕府

薩摩義士と宝曆治水

の無理難題と思えば腹が立つが、同胞の難
儀を救うのは人間の本分であり、耐え難きを
耐えて、この難工事を成し遂げるなら、御家
安泰の基になるばかりでなく、薩摩武士の名
譽を高めて、その名を永く後世に残すこと
ができるのではないかと、平田鞠負公は
これによって、薩摩藩は幕府の命令に従う
ことを決めた。翌宝暦4年(西暦1754年)2月に
工事は開始されました。
工事は第1期工事と第2期工事に分けて行
われました。第1期工事は主として、前年まで
の水害によって破壊された堤防等の災害復
旧工事を中心として行い、第2期工事では三
川とその支流において川分堤・洗堰・締切堤
掘削等の難工事が中心でした。油島締切堤
と大樽川洗堰もこの第2期工事でも実施され
ています。
宝暦5年(西暦1755年)3月21日に工事は
完了しますが、薩摩藩は、この間に約40万両
1753年)江戸幕府はこの美濃から1,200km
も離れた薩摩藩に、幕府の設計に基づいて、
人手・お金・材料を負担して工事を実施する
よう命令を出しました。
これには、旧高須藩主であった尾張藩主
徳川宗勝が今は妻子が藩主を務める高須藩
領や尾張藩領、幕府領を水害から守り、さら
に薩摩藩であった薩摩藩の経済力を弱めるね
らいがあったと考えられています。
薩摩藩ではこの命令に対し、おもだった家
臣の全てが集められての会議が行われまし
たが、意見はまとまらず、むしろ「命令を突き
返す、一戦を交えても断るべき」という意見
が大勢を占めました。
そうした中、薩摩藩家老平田鞠負公の意
見は「縁もゆかりもなく、遠い美濃の人々を水
害の苦しみから救済する義務はないかもしれ
ないが、美濃も薩摩も同じ日本である。幕府

薩摩義士と宝曆治水

幕府の代官吉田久左衛門、木曾・長良・揖斐三川の調査

宝暦4年1月16日 (1754) 家老平田靱負が工事総奉行に、大目付伊集院十蔵が副奉行に任命される

宝暦5年3月27日 (1755)

平田靱負翁画像

法名

死亡年月日

俗名

法名	死亡年月日	俗名
	宝暦4年 6月27日	新右衛門
	宝暦4年 7月13日	六平
	宝暦4年 7月21日	助次郎
	宝暦4年 8月4日	新右衛門
	宝暦4年 8月15日	利右衛門
	宝暦4年 8月18日	川合瀬兵衛
	宝暦4年 8月18日	権右衛門
	宝暦4年 8月18日	喜右衛門
	宝暦4年 8月25日	長左衛門
	宝暦4年 9月6日	惣左衛門
	宝暦4年 9月13日	岩七
	宝暦4年 9月15日	深見助助
	宝暦4年 9月27日	六左衛門
	宝暦4年 9月27日	長八
	宝暦4年 10月17日	三四郎
	宝暦4年 10月23日	太田喜三右衛門
	宝暦4年 11月9日	仁八
	宝暦4年 11月21日	大灌十左衛門
	宝暦5年 1月12日	助四郎
	宝暦5年 2月9日	大橋七郎右衛門
	宝暦5年 2月12日	与八
	宝暦5年 2月13日	覚佐衛門
	宝暦5年 4月28日	市右衛門
	宝暦5年 5月8日	仁助

恢

・感信士

本倒還立信士

頂法灌受信士

玄入義門信士

節霜義端信士

灌山頂雪居士

正融義春信士

風外浄航信士

春到岸誓信士

陽観春察信士

報運順應信士

宝国諱林信士

薩摩義士を埋葬した甕(天照寺蔵)

薩摩義士の過去帳(天照寺蔵)